

# 日本ビジネス実務学会第 44 回全国大会のご案内（第 1 号通信）

## 日本ビジネス実務学会第 44 回全国大会概要

### 大会統一テーマ「企業におけるビジネス実務教育—人材育成の取り組みと課題—」

本学会は 1996 年 6 月の総会で「日本秘書学会」から「日本ビジネス実務学会」へと改称され、30 年近くが経ようとしています。改称の後の学会報には、当時の和野内崇弘会長の記念講演の内容が記載されています。なぜ、「日本ビジネス実務学会」へと改称するのか、研究領域の拡大の必要性とその際に留意すべき点です。

留意すべき点の一つとして、ビジネス活動を働く個人の側面からアプローチしていくという視点は、他学会にはない本学会独自の視点であり、今後も継続していくべきだとしています。そして、二つ目は、「実務教育」にこだわり、ビジネス現場の教育研究を考えていく、「実践的で実務的」なアプローチを、本学会の基本となる視点として、継続していくべきだとしています。

そのような経過で、本学会の研究対象領域として、現在、以下が示されています。

#### 【1】ビジネス実務教育

- 1) カリキュラム検討：ビジネス実務能力を向上させるカリキュラムの開発を目的とした研究
- 2) ビジネス実務の教育プログラム開発と教材開発：ビジネス実務能力を向上させる教育プログラムや教材の開発を目的とした研究
- 3) 教育方法の研究：ビジネス実務能力向上のための教育効果を高める方法の研究

#### 【2】ビジネス実務研究

- 1) ビジネス環境とビジネス実務：ビジネス環境の変化がビジネス実務にどのような影響を及ぼすかを明らかにし、ビジネス実務教育またはビジネス現場の問題解決に貢献する研究
- 2) 人材育成と能力開発：組織においてどのような人材育成・能力開発が行われているかを明らかにし、「働く個人の能力向上」に貢献する研究

しかし、全国大会の統一テーマを振り返ると、高等教育の中でのビジネス実務教育をテーマにしたもの、あるいは、ビジネス実務研究の中でも AI 時代やニューノーマル時代といった「ビジネス環境」をテーマにしたものが多く、5 つの重要領域の 1 つである「人材育成と能力開発：組織においてどのような人材育成・能力開発が行われているかを明らかにし、『働く個人の能力向上』に貢献する研究」という領域は、全国大会の統一テーマとしてはあまり取り込まれてきませんでした。また、研究発表や論集への投稿という点でも、決して活発に研究されている状況とは言えません。

しかしながら、本学会の目的を考えたとき、この研究領域も非常に重要であることは間違いありません。今回は、「組織においてどのような人材育成・能力開発が行われているか」というテーマを取り上げました。

多くの会員の方々の報告また参加をいただき、皆様の教育・研究に貢献できる機会となれば幸いです。

大会実行委員長  
坪井明彦

## 1. 大会日程および会場

2025年5月31日（土）・6月1日（日）

【会場：目白大学・目白大学短期大学部新宿キャンパス（〒161-8539 東京都新宿区中落合 4-31-1）】

■1日目:5月31日（土）

午前

- ・総会（第1部）
- ・基調講演 株式会社日本マンパワー 代表取締役会長 田中稔哉氏「人材育成と能力開発 ―組織においてどのような人材育成・能力開発が行われているか―」

午後

- ・総会（第2部）
- ・研究発表
- ・懇親会

■2日目:6月1日（日）

- ・パネル・ディスカッション「企業におけるビジネス実務教育―人材育成の取り組みと課題―」
- ・学会奨励賞発表
- ・表彰式

## 2. 研究発表について(申込要領)

### (1) 研究発表の内容と形式

発表内容は、学会趣意書に記載された研究領域等に則しており、理論的、実践的に意義深いものとし、発表の種類については、口頭発表のみとします（ポスター発表はありません）。

発表時間については、「発表 20 分＋質疑応答 10 分」の計 30 分を制限時間とします。

発表会場には、ウィンドウズ PC とプロジェクタを用意します。

2024 年度に研究助成（共同研究および個人研究）を受けた方は、発表が義務付けられています。通常の研究発表と同様に申し込みをお願いします。

### (2) 研究発表申込みの流れ

■研究発表申込み締め切り：2025年2月21日（金） 24:00

研究発表の申込み希望の会員の方は、以下の内容を「研究発表申込み」フォーム（Google Forms）に入力し、お申込みください。

※研究発表申込みサイト

<https://forms.gle/V6z56cwsHAm5FvwW7>

- ・主発表者氏名（ふりがな）・所属・会員種別
- ・主発表者の連絡先（メールアドレス、電話番号）
- ・共同研究発表者全員の氏名・所属・会員種別 [共同研究の場合]
- ・発表タイトル
- ・発表要旨（400 字程度）
- ・研究領域（学会ウェブサイト「ビジネス実務の研究対象領域」から選択）
- ・「学会奨励賞」の対象とする審査希望の有無

#### ■研究発表のご注意とお願い

- 1) 申し込み多数の場合は、要旨内容に基づき審査を行ったうえで、先着順となることがありますので、予めご了承ください。（※できるかぎり対応します。）
- 2) 共同研究者は会員であることが条件です。
- 3) 主発表者としての発表は1件に限ります。
- 4) 申し込み後は、発表テーマ等の大幅な変更はできません。
- 5) 前年度の会費が未納の方は発表できません。ご注意ください。

#### ■「学会奨励賞」について

- 1) 学会奨励賞の審査を希望する研究発表の中から、学会奨励賞(若干名)を選出します。
- 2) 学会奨励賞へエントリーされた方は、第2日目の学会奨励賞授賞式に必ずご参加ください。
- 3) 前年度の学会奨励賞の受賞者は、今年度は審査対象となりませんので、ご注意ください。

#### ■発表の採否通知および発表要旨原稿の提出について

メールで採否通知を行います（2月22日～28日を予定）。採択の場合、以下のようになります。

- 1) 大会事務局から「研究発表要旨集」の原稿フォーマットをメールに添付してお送りします。
- 2) 原稿を作成し、提出してください。日本ビジネス実務学会ウェブサイト「ビジネス実務論集執筆要領」を参照\*の上、4頁以内で要旨原稿を作成し、指定するグーグルドライブにアップロードしてください。
- 3) 原稿は2種類のファイル形式（WordとPDF）を提出してください。ファイル名を主発表者の氏名としてください。
- 4) 原稿を提出するグーグルドライブのURLについては、発表採択者に後日連絡します。

\*「ビジネス実務論集執筆要領」<https://www.jsabs.gr.jp/publications/journal/guidelines/>の「論集執筆用フォーマット」に記載されている「英文タイトル」「英文氏名・所属」「要旨」「キーワード」は省略してください。

#### 4. 今後の予定

研究発表の申込み	2月21日（金）締切り
全国大会第2号通信の発送（Eメール）	4月4日（金）を予定
「大会プログラム・研究発表要旨集」原稿の提出	4月25日（金）締切り
参加費支払い（参加申込み）	5月18日（日）締切り

## 5. 会場までの交通手段

※第2号通信でもご案内いたします。

目白大学・目白大学短期大学部 新宿キャンパス8号館

### 所在地

〒161-8539 東京都新宿区中落合 4-31-1 目白大学・目白大学短期大学部 新宿キャンパス8号館



### 交通のご案内

※会場には駐車場はありません

◎電車最寄り駅から新宿キャンパスまで

西武新宿線・都営地下鉄大江戸線「中井」駅より 徒歩8分

※西武新宿線「中井」駅へは「各駅停車」にお乗り換えください。

東京メトロ東西線線「落合」駅より 徒歩12分

◎最寄り駅までの所要時間



時間帯や乗り継ぎ等により異なる場合があります。

(目白学園ホームページより)

## 6. 連絡先

お問い合わせ・ご連絡は、原則として E メールにてお願いいたします。

➤ 実行委員長

〒370-0801 群馬県高崎市上並榎町 1300 番地

高崎経済大学 坪井明彦

Eメール: [tsuboaki@tcue.ac.jp](mailto:tsuboaki@tcue.ac.jp)

➤ 事務局長

〒161-8539 東京都新宿区中落合 4-31-1

目白大学短期大学部 上岡史郎

Eメール: [kamioka@mejiro.ac.jp](mailto:kamioka@mejiro.ac.jp)

➤ 会場

➤ 〒161-8539 東京都新宿区中落合 4-31-1

➤ 目白大学・目白大学短期大学部 新宿キャンパス8号館

## 日本ビジネス実務学会

### 第 44 回全国大会

**JSABS**  
Japan Society of Applied Business Studies

◆ 会期：2025年5月31日（土）・6月1日（日）

◆ 会場：目白大学・目白大学短期大学部新宿キャンパス8号館

大会実行委員長 坪井明彦（高崎経済大学）

（Eメール：[tsuboaki@tcue.ac.jp](mailto:tsuboaki@tcue.ac.jp)）

大会事務局長 上岡史郎（目白大学短期大学部）

（Eメール：[kamioka@mejiro.ac.jp](mailto:kamioka@mejiro.ac.jp)）